

○鈴木治太郎氏著

## 實際的・個別的・智能測定法

個性による教育方法の實際のために、個性の伸長を主とする教育目的の上からいつても、その基礎として、兒童測定は、新教育の極めて重要事項となつた。兒童測定をすることは必ずしも新しいことではないが、教育の本質性において更めて重視され來つたといつてよい。その大切なる考慮が、幼兒教育にあつても、適切に拂われなければならぬことは、言を俟たぬのである。

しかし、その測定の方法については、我國及び外國のその専門家の考察にかゝるものがある。あつて、一長一短ありとせられる。少くも外國の測定尺度をそのまゝに用うことは、理論的研究には興味があるが、實用上には適當でないことが多く、その改訂に

つき我國學者の種々工夫研究を試みる所以である。

本書の著者鈴木氏は、この方面の先驅者として、早くも大正九年に着手せられ、昭和五年に本書名の初版の公刊を見て以來、廣く教育界その他に用いられて、普く人の信頼するところとなつた。しかし、熱心なる著者は、初版發表後、新實驗と、海外の新文獻とによる増補修正をつゞけ、幾回もの改訂新版を公刊した。こゝに此の昭和二十三年度修正増補版を以て、年々増加する世の要求に應ぜられたのである。これに先だつて昭和二十二年公布の文部省の「學習指導要領一般編」に、「智能検査の方法として、今日わが國に最も確かだと思われるのは、ビネー法やスタンフォード改訂法その他を基礎とし

て、わが國兒童の多數についで實際の結果で作られた、鈴木治太郎氏の個別的知能検査法である」と推奨されて居り、二十三年度版も、既に第三版を重ねたことは、以て世の信頼を知ることが出来る。

本書の測定問題は七十六問の多きに及び、二歳から二十三歳までを、更に各年齢毎に各種の問題に分ち、各問題について、材料、方法、採點、説明を懇切に擧げてある。特に幼兒期のため問題が二十九問あり、幼稚園、保育所の使用に用意されているといつてよい。本誌讀者にとつて歓迎せらるべき好書である。

(大阪市東住吉區山坂町)

東洋圖書發行・定價金參百八十圓

(意橋改訂三)